

こども食堂への参加者の変化に関する調査事業

定量調査分析結果

最終報告書概要版

2024年5月

認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

ケイスリー株式会社

一般社団法人エビデンス共創機構

「子ども食堂への参加者の変化に関する調査」概要

- 目的：子ども食堂への参加による子ども・保護者の内面の変化を定量的に（数字で）示すことで、多くの人に子ども食堂の価値を伝える
- 対象：沖縄県・大阪府堺市内の子ども食堂に参加している子どもとその保護者、子ども食堂運営者
 - 第1回調査
 - 子ども 866名・保護者 322名・子ども食堂運営者 38名
 - 第2回調査
 - 子ども 883名・保護者 223名・子ども食堂運営者 4名
 - 第1回と第2回で回答を紐づけできた回答者
 - 子ども 116名・保護者 46名
- 調査スケジュール：
2023年7月～9月 第1回アンケート調査
2023年11月～2024年1月 第2回アンケート調査

※調査手法の詳細やデータの詳細については「最終報告書」をご参照ください。

子ども食堂に関する
調査協力をお願い

アンケートで子ども達の変化が見える化

調査の意義
子ども食堂の取組みについて

わかりやすく
価値を伝える

理解が
広がる

協力が
増える

対象地域 沖縄県内または大阪府堺市内にある子ども食堂
対象要件 月1回以上同じ場所で食事を提供していること
謝礼 お菓子セット（30個程度）をお送ります

ケイスリー株式会社
子ども食堂調査事務局
☐ kodomo-s@k-three.org

調査にご協力いただける方は、上記メールかQRコードよりご連絡ください。
イベント等で担当者が近くにいる場合、下記ご記入の上、直接手渡しいただいても構いません。

※本調査は、認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえよりケイスリー株式会社に委託して実施

子ども食堂・居場所の名称	氏名	
電話番号	メールアドレス	

※詳細は最終報告書(P3～P8)を参照

結果①-1

「こども食堂への参加回数の多さ・参加期間の長さ、こども食堂への安心感の高さ・他者への信頼感の高さが有意に相関」

- 調査の結果、こども食堂への参加回数の多さ・参加期間の長さ、こども食堂への安心感の高さ・他者への信頼感の高さの間に、統計的に有意な相関関係が見られました。具体的な設問内容は以下の通りです。
 - こども食堂は、ほっとしたり安心できる場所である
 - こども食堂に、悩みを相談できる人がいる
 - こども食堂に、困った時に助けてくれる人がいる
 - こども食堂に、他のひとに言えない本音話せる人がいる
 - 他人もある程度は信頼できると感じる

表の見方は、最終報告書P73をご参照ください

	こども食堂は安心できる場所	こども食堂に悩みを相談できる人がいる	こども食堂に困った時に助けてくれる人がいる	こども食堂に本音話せる人がいる	自分は誰とでもすぐ仲良くなれる	他人もある程度信頼できると感じる	人は信用できないと思う
こども							
参加回数6回以上	0.062*	0.004	0.030	0.092*	0.084*	0.000	-0.016
参加期間1年以上	0.025	0.052*	0.055*	0.081*	0.084*	0.069*	0.025
保護者							
参加回数6回以上	0.079	0.185*	0.156*	0.169*	0.063	0.079*	-0.054
参加期間1年以上	0.077	0.107*	0.106*	0.143**	0.103*	0.042	-0.023

※「参加回数6回以上」もしくは「参加期間1年以上」の影響を他の要因をコントロールした上で回帰分析で検証した結果
 ※「*」がついている数値は検定の結果、10%水準で統計的に有意であったことを意味する

※詳細は最終報告書(P14~P15)を参照

結果①-2

「こども食堂への参加回数の多さ・参加期間の長さ、 こども・保護者の社会性の高さ」が有意に相関

- こども食堂への参加回数や参加期間と、**自分は、誰とでもすぐに仲良くなれる方だと思う**という回答への肯定度の高さの間に統計的に有意な相関関係が見られました。この背景には、参加者自身が他者とのコミュニケーションを積極的にとれる、あるいは他者に積極的に働きかけられる、交流できるという自負・自認のあることが窺えます。それを「社会性の高さ」と表現しました。

表の見方は、最終報告書P73をご参照ください

	こども食堂は安心できる場所	こども食堂に悩みを相談できる人がいる	こども食堂に困った時に助けてくれる人がいる	こども食堂に本音を話せる人がいる	自分は誰とでもすぐに仲良くなれる	他人もある程度信頼できると感じる	人は信用できないと思う
こども							
参加回数6回以上	0.062*	0.004	0.030	0.092*	0.084*	0.000	-0.016
参加期間1年以上	0.025	0.052*	0.055*	0.081*	0.084*	0.069*	0.025
	こども食堂は安心できる場所	悩みを相談できる人がいる	困った時に助けてくれる人がいる	本音を話せる人がいる	誰とでもすぐに仲良くなれる	他人もある程度信頼できる	人は信用できないと思う
保護者							
参加回数6回以上	0.079	0.185*	0.156*	0.169*	0.063	0.079*	-0.054
参加期間1年以上	0.077	0.107*	0.106*	0.143*	0.103*	0.042	-0.023

※「参加回数6回以上」もしくは「参加期間1年以上」の影響を他の要因をコントロールした上で①層分析で検証した結果
※「*」がついている数値は検定の結果、10%水準で統計的に有意であったことを意味する

※詳細は最終報告書(P14～P15)を参照

結果② 「こども食堂に通うことで、つながりが増える」

第1回調査と第2回調査の間で「こども食堂がきっかけで話すようになった人」の数が以下のように変化した。

こどもの回答 同じ学校・同じ学年 とのつながり		第2回					
		0人	1人	2-3人	4-5人	6人以上	合計
第1回	0人	30	6	9	7	11	63
	1人	6	0	4	1	0	11
	2-3人	7	2	3	2	2	16
	4-5人	2	2	1	1	4	10
	6人以上	2	1	1	1	0	5
	合計	47	11	18	12	17	105

増加=44% 変化なし=32% 減少=24%

こどもの回答 同じ学校・違う学年 とのつながり		第2回					
		0人	1人	2-3人	4-5人	6人以上	合計
第1回	0人	36	4	4	2	12	58
	1人	6	1	3	1	0	11
	2-3人	5	0	6	6	2	19
	4-5人	3	0	1	2	1	7
	6人以上	2	0	0	2	3	7
	合計	52	5	14	13	18	102

増加=34% 変化なし=47% 減少=19%

こどもの回答 違う学校 とのつながり		第2回					
		0人	1人	2-3人	4-5人	6人以上	合計
第1回	0人	65	5	6	0	4	80
	1人	4	0	1	0	1	6
	2-3人	3	3	2	2	1	11
	4-5人	0	0	0	1	2	3
	6人以上	0	0	0	1	3	4
	合計	72	8	9	4	11	104

増加=21% 変化なし=68% 減少=11%

こどもの回答 大人 とのつながり		第2回					
		0人	1人	2-3人	4-5人	6人以上	合計
第1回	0人	26	4	6	2	4	42
	1人	2	0	3	2	1	8
	2-3人	4	2	14	6	7	33
	4-5人	2	0	3	2	1	8
	6人以上	3	0	1	3	5	12
	合計	37	6	27	15	18	103

増加=35% 変化なし=46% 減少=19%

※青色部分：第1回調査時点よりも、第2回調査時点で「こども食堂がきっかけで話すようになった人」の数が増加
 灰色部分：第1回調査時点と第2回調査時点の間で変化なし
 黄色部分：第1回調査時点よりも、第2回調査時点で「こども食堂がきっかけで話すようになった人」の数が減少

※詳細は最終報告書データ4を参照

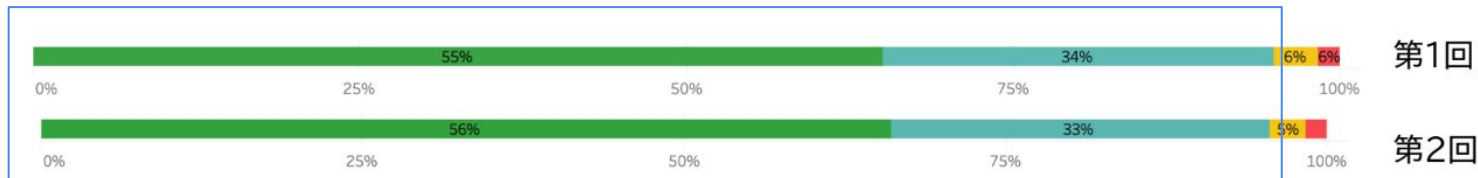
結果③ 「子ども食堂への信頼感はおしなべて高い」 (1/2)

以下の各設問への回答から、子ども食堂への信頼感はおしなべて高いということがわかった。第一回調査の時点で信頼感が高かったことと、半年間という短い調査期間であることから、大きな変化は見られなかった。

■ そう思わない
■ どちらかといえばそう思わない
■ どちらかといえばそう思う
■ そう思う

Q.【子ども】 つぎの場所は、今のあなたにとってほっとしたり、安心できたりする場所ですか？

子ども
食堂

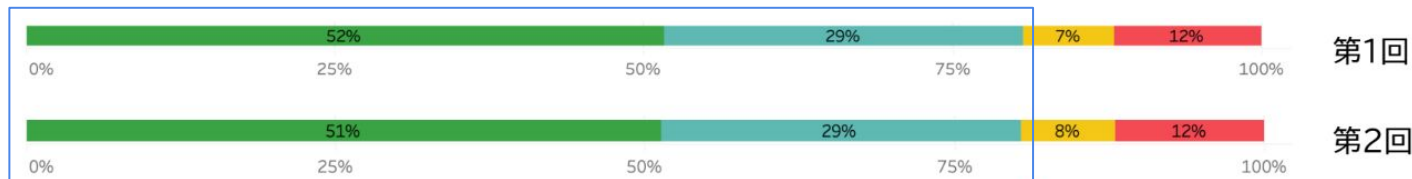


肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合：第1回 89% 第2回 89%

(参考) [内閣府 子ども・若者の意識と生活に関する調査 \(令和4年度\)](#)における「地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）」への肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合は63.0%

Q.【子ども】 子ども食堂で出会った人（友だちや大人など）について、つぎのような人はいますか？

困った時に助けて
くれる人がある



肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合：第1回 81% 第2回 82%

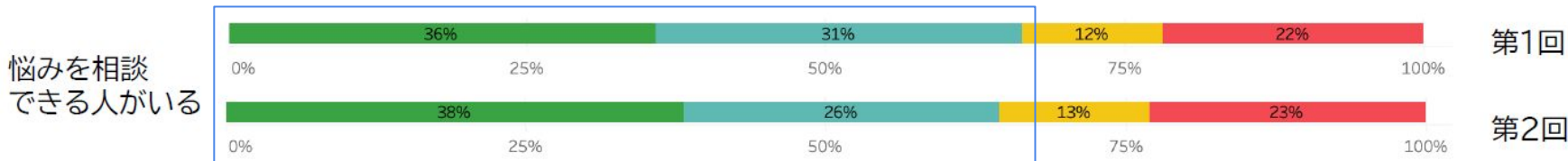
(参考) [内閣府 子ども・若者の意識と生活に関する調査 \(令和4年度\)](#)における「地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）はこまったときは助けてくれる」への肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合は68.4%

結果③ 「子ども食堂への信頼感はおしなべて高い」 (2/2)

以下の各設問への回答から、子ども食堂への信頼感はおしなべて高いということがわかった。第一回調査の時点で信頼感が高かったことと、半年間という短い調査期間であることから、大きな変化は見られなかった。

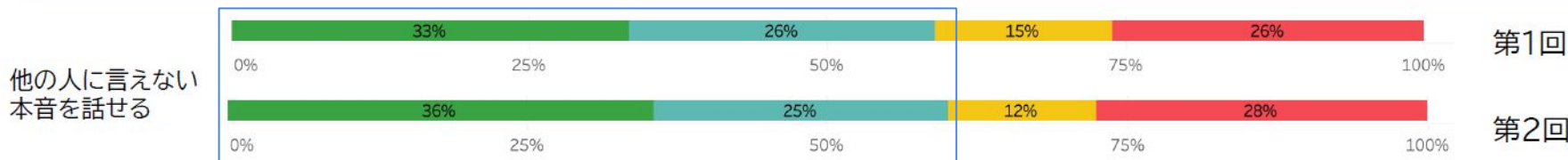
■ そう思わない
■ どちらかといえばそう思わない
■ どちらかといえばそう思う
■ そう思う

Q.【子ども】 子ども食堂で出会った人（友だちや大人など）について、つぎのような人はいますか？



肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合：第1回 67% 第2回 64%

(参考) [内閣府 子ども・若者の意識と生活に関する調査 \(令和4年度\)](#) における「地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）の中に何でも悩みを相談できる人がいる」への肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合は47.2%



肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合：第1回 59% 第2回 61%

(参考) [内閣府 子ども・若者の意識と生活に関する調査 \(令和4年度\)](#) における「地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）の中に他の人に言えない本音を話せる人がいる」への肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合は38.9%

自由記述コメント（一部抜粋）

子どもたちから	保護者の方から	運営者から
<ul style="list-style-type: none">● 今日初めてこども食堂でみんなでご飯を食べて、あまり話したことのない友達と知り合う事ができて、すごく良いと思いました。● 家みたいに安心感があり、とっても温かくていいふんいきだと思いました。● 今まで小さい子どもだけが来るところだと思っていたけど、色んな人と関わるところだなと思いました。● 新しい経験やいろいろな人と楽しく話せてほんとに感謝です！！● みんなが楽しそうだし、みんな過ごしやすそうので自分もちがう学校の子と話してみたいと思いました。● なかなかいっしょにしょくじができないともだちと、たべれたりしてうれしかったし、けんかもなくて、楽しかったし、ともだちがいて、とてもよかったです。● 学校で分からない問題を聞いてかいつできたり、普段話さない人と話すので、おもしろい。● 難しい勉強が分かったりして楽しい。このじゅくで一生けんめい勉強をがんばって受験する高校に合格したいです。	<ul style="list-style-type: none">● 経済的にはもちろんですが（ありがたい事）、精神面でも心のより所になっていて、なくてはならない場所です！！● 子ども達が安心して遊べる場所が少なくなっているの、こういう場所があるのは大変ありがたいです。こども食堂を通じて新しい友達も増え、輪が広がったように感じます。● 疲れている時に、こども食堂のある日だ、と思うと、日中ゆったりと過ごせて助かっています。気持ちが楽になります。● スタッフさんたちも仲が良く、保護者の方とスタッフさんのコミュニケーションの場ともなっていてすごく良く心が助かります。● 金요일日の夜は、こども食堂に頼って、家事をする時間が減る分、子どもたちとゆっくり向き合えるゆとりが出来ています！心にもゆとりができると子どもにも優しく出来るのでとてもとてもありがたいです^^● 日本の学校での生活は言語や生活面において困難に感じる事が多かったが、こども食堂に参加し、同じ境遇の人と関わることで、疑問や不安が取り除かれ、日々の生活が楽しくなった。	<ul style="list-style-type: none">● 食堂に来る子ども達は大変仲が良く、きょうだいのような家族のような間柄になっていることが大変嬉しいです。こども食堂が子どもたちにとっては最高の居場所になっています。● 登校拒否気味だった小1の男の子が、こども食堂へ通うようになってから、他の子と交わることができるようになり、現在では喜んで登校するようになった。● 来所当初は反発が強かった小学校高学年女子が、スタッフの声かけにも舌打ちして無視する状況だったのが、子どもスタッフとしてお手伝いをしてもらうことで、交流を重ね、信頼関係を築けるようになりました。● 最初は恥ずかしそうにしていた子ども、来るのを楽しみにしてくれて、自分で参加申し込みの電話ができるようになった。子どもたちがボランティアの大人をみて、「〇〇さんだー」「〇〇くんのおばあちゃんだー」とか楽しそうに話しているのは嬉しいですね！● 学校に行きづらい子の親が居場所としてボランティアに参加していた。子ども食事をきっかけに友人との遊びを再開できた。学校に行けな分、先生が食堂に来てくれて少ずつ、信頼関係ができ、登校できるようになりました。

子どもたちから寄せられたイラスト（一部抜粋）

